



# YMCA

月刊 The YMCA 付録  
 編集・発行 / 日本 YMCA 同盟 東京都新宿区本塩町7番地  
 大阪青年 発行: 末岡祥弘 編集: 大阪 YMCA 広報室  
 〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6  
 TEL06-6441-0894 FAX06-6445-0297  
 URL: http://www.osakaymca.or.jp/  
 (年10回発行) 1947年10月27日 第3種郵便物認可

## 大阪青年

2008 May. 5  
 No. 606

### 大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代のひととが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。
- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界のひとびとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

## 多種多様な企業に支えられるYMCAボランティア活動

土佐堀YMCA館長

かんだ 尚人  
 神田 尚人

1995年1月に阪神・淡路大震災が起こり、その後の復興活動の中で全国的にボランティア活動が定着し、2006年発行の「社会福祉・ボランティア統計データ集」によれば、2005年に何らかの形でボランティア活動をした人は780万人に上ります。その内訳は、団体に所属してボランティア活動を行っている人が約740万人、個人でボランティア活動を行っている人は40万人弱です。

一方、(社)日本経済団体連合会が毎年行っている「社会貢献活動実績調査」の2006年度の結果によれば、企業における社会貢献活動に、最近幾つかの特色がみられます。

一つには、社会貢献活動支出額はバブル期の1991年度に次ぐ、歴代2番目の額となり、企業の社会的責任(CSR)の一環として社会貢献活動を位置づけ、積極的に展開しようとする企業の姿勢が数字として表れていることです。支出総額の内訳比率は、社会福祉、スポーツ、教育・社会教育、地域社会の活動、国際協力・交流など、YMCAに関係する分野が全体の4割を占めています。

二つ目は、企業からの寄付金を見ると、寄付金は社会貢献活動支出総額の76%を占め、国・地方自治体への寄付や指定寄付金が減り、特増&認定NPO法人や一般の公益法人、NPO法人、法人格を持たないNPO・NGOへの寄付が増加していることです。

三つ目には、社会貢献活動推進のための社内体制や制度導入において、「基本方針の明文化」「専門部署または専任担当者の設置」「社内横断的組織の設置」の増加が顕著になっており、今後この組織的な対応の傾向は強まるものと思われる。

これらの特色を総合すると、YMCAが得意とする分野でのボランティア活動と、その場を提供するために企業の支援や寄付を得る

ためには、一定の方向性が見て取れます。

2007年12月号の「THE YMCA」で、国際賛助会のバーナード・ユース事務局長は、「企業からのチャリティーによる寄付も、明確な目標と結果、正確な情報、効率的な提案や継続的な報告が要求される傾向にあること。確実性が求められ、単に目的がすばらしく、情熱が感じられるというだけでは評価されなくなっていること。また支援を検討する過程で、その活動をテストするために、社員ボランティア・プログラムを必要とする傾向にあること。YMCAはプログラムの報告内容を工夫するだけでなく、多くのボランティア活動の機会を提供することで、企業とのよりよい関係を築くことができること」を上げています。

実際、大阪YMCA賛助会の企業の中にも、会費や寄付としての支援だけでなく、具体的なボランティア活動の場として、YMCAのプログラムに社員が積極的に参画や参加をする例も増えてきています。

公益性に適うプログラムとして、YMCAは誰でもが参加できることを目指してきましたが、特に障がいを持った方の受益者負担には限界があります。だからこそ、大阪YMCAは企業や団体からの支援金によって、障がいのある方を対象とした支援プログラムをはじめ、様々な支援プログラムをボランティアと共に展開してきました。

バーナード・ユース事務局長の示唆に富んだこの話は、社員を含め多くの市民にボランティア活動の機会を提供し、YMCAの活動を通じてボランティア精神を身につけることができること、そしてYMCAも組織的な対応を取り、企業に支えられたボランティア活動の展開を強めていく必要があることを教えています。

### 地の塩

▼春から夏をつなぐこの時季は、緑が映え太陽が輝く美しい季節であるが、地球環境の変化は確実に進んでいるようだ。繰り返し返される異常な豪雨、猛暑、台風等を考えると憂鬱だ。それ以上に、活動期を迎えつつあると言われる日本列島の地殻変化も気にかかる▼かつて子どもにとつての怖いものは、「地震・雷・火事・親父」であった。しかし、親父の怖さはその権威の失墜とともに消え去り、今や伝説化しつつある。いつの時代も地震の恐怖は、予測し難いが故に恐怖感が強い。阪神大震災の体験や中越沖地震、インドネシア沖の地震津波、バングラデシュのサイクロン等の映像は今も心に残る▼高い確率で予想される東南海・南海地震は、大きな津波被害をもたらすとされている。YMCAの海洋施設にも影響が考えられる。内海とは言え海岸部に立地する阿南海洋センターも、40年の歴史と実績を生かした備えがなされている。一方、受託施設である和歌山県の堺市立日高少年自然の家は、太平洋に面しているだけに気にかかると、海岸沿いの曲がりくねった山道を走ると、外洋の荒波を鎮めるかのような小島を抱えた美しい入江に行き着く。浜辺を隔てる防潮堤とさらに防潮壁の2段で守られ、海に向かって広がる立派な建物が、YMCAが運営管理している日高少年自然の家である。この防潮施設や高台にある食堂前の展望広場が、避難スペースとして整備されているが、むしろそれ以上に管理するスタッフの安全への意識が高く強い事が心強い▼施設の安全は、ハード・ソフト面はもとよりスタッフや関わるボランティアの意識による所が大きい。私たちが最も大切にすべき点である事を改めて確認したい。(善)